

## 仙人通信 111 鶏冠山 (1716m)

鶏冠山は大菩薩峠の北側に位置し、武田信玄の金山として有名な3等三角点の山である。青梅街道の柳沢峠にある駐車場(1470m)から高低差250m程の山旅である。国道を挟んだ反対側がナラ坂コースのスタートだ。登り初めると新しい鹿の爪痕を発見、3分位進むと数頭の白い尾が前を歩いている。木の実を求めて来たのだから、小生のカウベルに気づき笹の中に消えていった。東京都の水源ということもあり、道幅も広くよく整備されて歩きやすい。コースは山の北側を巻き緩やかな登りである。唐松林は黄色に色付き始め、ウラジロモミ・ダケカンバ・リョウブが目立つ。紅葉が始まったイタデカエデ・ミズキ・アオダモ・ウルシそして葡萄である。20分程で梅の木尾根の分岐となり六本木峠の標識に従い、ここからも山の北側の日陰を進む。スギゴケ等のコケ類が静かさを醸し出す登山道だ。時折ミズナラの実が笹の葉の上に音を立てて落ち、動物かと驚かされる。分岐から30分程で、落合と大菩薩の間にある六本木峠に出る。コースはやがて尾根を越え南側となり緩やかな下りである。植林された檜が登山道を覆い、展望は殆んど利かないも、時折、谷の先に大菩薩が望める。

ここまでのコースでの岩質を、露岩を見つける度にスティックで突き石英閃緑岩である事を確認した。

先にも触れたが、金峯山から秩父連山の笠取 大菩薩 御坂へと甲府盆地を包むようにの字状に形成された深成岩である。笠取・大菩薩の西側・雁摺山・滝子等でも確認し報告をしました。20分程で林道

新横手山峠 である。鶏冠山と金山跡への道標があるが、通行止めの柵が作られている。軽自動車であれば通行できる道幅であることから、登山者用でないと決め込んでそのまま進む。

林の主体は檜であるが、小さな緑の栗のイガが落ちていたのではないかとよく見ると1cmに満たない小さな栗が落ちていた。17個ほどを拾い集めポーチに入れて持ち帰った(家で妻に見せると、動物の食べ物を探って来てしまったのと、あしらわれた)。20分程進むと横手山峠である。ここで落合集落と鶏冠山

そして金山跡の分岐である。金山跡への緩やかな下りのコースをさらに進む。道幅は登山道の幅で、谷底から吹き上げる風で木々の擦れる音・木の葉の音・沢を落ちる水音以外には、小生のカウベル以外に音が無く、静寂の世界である。岩は砂岩質となり、石英閃緑岩は見当たらない。峠当たりが四万十帯の構造線のような。35分程で山頂と金山跡への分岐点である。地図を確認すると1300m程度まで下がっている。山頂までの高低差が約400mだ。ブナ林の中、山頂へ向かう九十九折れの急登を30分進み尾根に出る。垂直の岩肌の山頂が望め、緩やかな登りを20分程進と山頂を示す道標だ。ここから岩が露出した10分程の登りで、鶏冠神社が祭られた山頂である。目の前にピラミダスな大菩薩、そして右には富士山だ。地図を広げて山名を確認。東側に開けた展望は雲取まで確認できた。こんな時間が最高である。休憩後、先程の道標まで戻り、10分程で3等三角点の展望台のある黒川山(1710m)が、木々が成長して展望は望めない。道標が指す向きと登山道の方向がズレていて不安となったが、信じて下る。35分ほどで横手山峠の道標が見えた(ホット!)。六本木峠を越えて梅の木尾根に戻り、今度はブナ坂コースを採る。途中の展望台からは、秩父連山の木賊・雁坂・笠取・唐松・飛龍までが青空の下、一望出来て嬉しさが込められた。柳沢口まで5時間30分(27000歩) 秋のノンビリした山旅となった。(h24.10.12)

苔むす登山道



山頂の神社



大菩薩と富士山

